

春にのみ見られるもの

1. ギフチョウ(地図中①地点)

年に1回だけこの時期に成虫が現れ、優雅に飛ぶ姿から「春の女神」とよばれます。日本固有のチョウで環境省のレッドデータブック(RDB)では絶滅危惧Ⅱ類に分類されています。

打吹山は個体数が多く、全国的に有名な場所でした。東京や鹿児島など県外からの採集者を見かけたことがあります。しかし、近年は個体数が減少しています。本来里山のチョウで、春は適度の日照があり、夏は葉陰になる場所を好みます。幼虫は有毒なウ



ギフチョウ



カンアオイの葉裏に産みつけられたギフチョウの卵

マノズクサ科のカンアオイだけを

食べ、林縁のカンアオイのみに産卵するため、そのような場所が減少したからです。4月下旬から5月上旬、葉の裏を見ると10個くらいの真珠のような卵や真っ黒な毛虫を見ることがあります。1ヶ月くらいで蛹(さなぎ)となり、落ち葉の下で翌春を待ちます。

成虫の観察には、開けた尾根や山頂部に雄が集まり、雌を待つ習性から、長谷の八十八ヶ所や頂上が良いポイントです。しかし、陽が陰ると活動をやめるため、晴天の必要があります。枯れ草の中に翅を広げて止まると保護色になり、近づいたとき突然飛び出します。

2. シラカシの落葉

常緑樹と落葉樹の違いは、落葉する時期が異なることです。常緑樹であるシラカシは、古くなった3年目の葉が、春に新芽が伸びて展葉する前に緑のまま落下します。このため葉の無い時がありませんから常緑なのです。地上には、茶色になった過去の落ち葉と新しく落下した葉のコントラストがよくわかります。

枝の先端は毎年枝分かれますから、枝の部分は何年目か区別できます。そこで、何年目の枝まで葉が残っているか、確認することが可能です。落葉は、役に立たなくなった葉が捨てられるのです。

役に立つ葉か否か

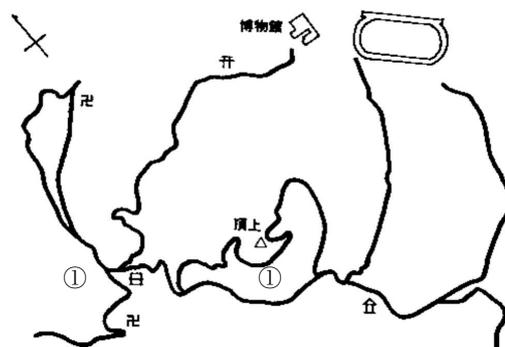
光合成による利得と呼吸による消費の比較

陰になって光が弱くなると、利得が減る ⇨ 切り捨て

新葉の展開後の落下

5月、新しく出た軟らかい葉がたくさん樹下に落ちているのが目立つ

新葉は、水の蒸散が多いなど不都合が起き、多すぎた新葉は捨てる ⇨ 生理的落葉



シラカシの落葉